

DX を活用した防災・備蓄管理の先進事例に学ぶ

総務産業建設常任委員会



●研修内容

防災DXプラットフォーム
Borderについて

①備蓄品管理の課題

○以前は管理をエクセルで行っており、データの加工に時間がかかっていた。

○搬入・棚卸に多くの人手を必要とし、運搬時のケガのリスクも伴っていた。

②Border導入後

○備蓄品管理は平時・災害時を問わず、システ

ムで一元管理できるようになった。

○協定企業先等への支援助物資要請についても、システムから依頼が可能になり非常に便利になった。

Borderは、現在、32都府県でアカウントが発行されている。

本町にとっても防災力の強化が求められる中、震災の教訓を行動に移した先進事例であることを心に留め、今後の参考にしたい。



チームの対応で「こどもまんなか」社会の実現を

文教厚生常任委員会



●研修内容

①こども家庭センターの設置について（川西町）

○機能設置とした。

○新たに取り組む自治体へのアドバイスとしては、統括支援員、母子健康機能担当、児童福祉機能担当が情報共有・連携をしっかりと取り、地域を含めたチームで迅速に対応することの重要性を強調されていた。

②教育現場の負担軽減について（大理事）

○学校関係の相談をしてみよう保護者専用窓口「ほっとステーション」を設立。

○学校の先生が精神的なストレスで休職、退職に追い込まれないよう、各事案を専門家も含めたチームで分析し、親子、先生の不安を取り除き、「こどもまんなか」の社会を目指している。

